

4. 松尾城地区の発掘調査報告

—妻木晩田遺跡第17次発掘調査(内容確認調査)—

1. 発掘調査の目的と経過

本調査は妻木晩田遺跡第17次発掘調査である。妻木晩田遺跡の全体像を把握することを目的とする第1期内容確認調査の4年次に位置づけられる。

松尾城地区は、第1次発掘調査によって丘陵頂部の調査がおこなわれ、弥生時代後期後葉～終末期、古墳時代前期、奈良時代の集落跡が確認されている。そのうち、松尾城1区と2区は松尾城地区で検出された竪穴住居跡の約8割が集中しており、松尾城地区の中では遺構密度が高い区域である。

そこで、本調査は松尾城1区と2区を結ぶ丘陵周辺の遺構分布を解明することを主目的として実施した。

今回の調査地点は、松尾城地区1区と2区の間、やや東よりの丘陵縁辺部とそこから北へ派生する緩斜面地にそれぞれトレンチを設定した(第28図)。調査期間は2005(平成17)年11月11日～2006(平成18)年3月17日、調査面積は約34㎡である。

2. トレンチ1(T1)の調査(第29図・第30図)

T1は、松尾城地区1区と2区を結ぶ丘陵上から北側に延びる尾根上の斜面地に設定した。トレンチの規模は、2×10mである。

(1) トレンチ内の堆積

①層は表土で、調査区全体を約5～15cmの厚さで覆っているが、斜面に沿う雨水の流路によって削平を受けている。その下にある②層(にぶい黄褐色土10YR4/3)からは、土器片が数点出土しているが、時期が特定できるものはない。調査区内のほとんどの範囲で見られるが、所々削平を受けている部分がある。③層(黒褐色土10YR3/1)は、調査区北端西側以外にみられ、V-3～VI期の土器が出土している。このことから、弥生時代終末期以降の堆積と考えられる。③層上面が、第107土坑(SK107)の遺構検出面である。④層(褐色土10YR4/4)、⑤層(明黄褐色土10YR6/6)は無遺物層である。

(2) 遺構

第107土坑(SK107)

トレンチの北西端で、炭化物が多く含まれた土坑状の掘り込みを検出した。そのため、トレンチの西壁沿いにサブトレンチを設定して注意深く掘り進めたが、時期を特定できる遺物等は出土しなかった。規模は、検出部

分で長軸約1.4m、短軸約0.7m、深さ約25cmである。③層からV-3～VI期の土器が出土していることから、弥生時代終末期以降のものであることは明らかであり、比較的新しい可能性もある。その他に遺構らしいものは検出できなかった。

3. トレンチ2(T2)の調査(第29図・第30図)

T2は、T1から管理道を隔てた南側、松尾城地区1区と2区を結ぶ丘陵の縁辺部に設定した。トレンチの規模は、2×7mである。

(1) トレンチ内の堆積

①層は表土で、調査区全体を約5～10cmの厚さで覆っている。②層(にぶい黄褐色土10YR4/3)からは、土器片が1点出土しているが、時期が特定できるものではない。③層(黒褐色土10YR3/2)からは土器片が数点出土しているが、時期が特定できるものはない。④層(黒褐色土10YR3/2)、⑤層(褐色土10YR4/6)は、無遺物層であるが、⑤層上面は第108土坑の検出面である。

(2) 遺構

第108土坑(SK108)

トレンチのほぼ中央西端に1/3程度確認することができる。規模は、検出部分で長軸約1.5m、短軸約0.5mである。埋土は黒褐色土(10YR3/2)であり、炭化物を含むが、時期を特定できる遺物は認められない。

遺構上面の④層が無遺物層であるため断定はできないが、縄文時代の落とし穴である可能性も考えられる。

4. まとめ

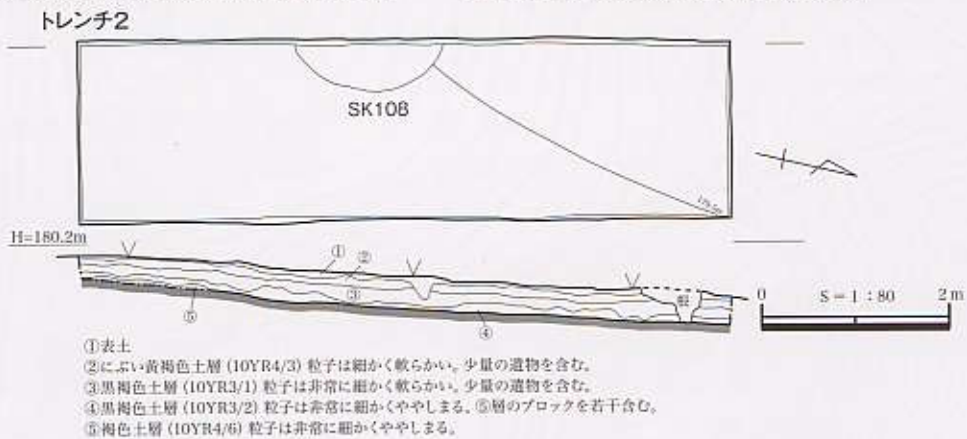
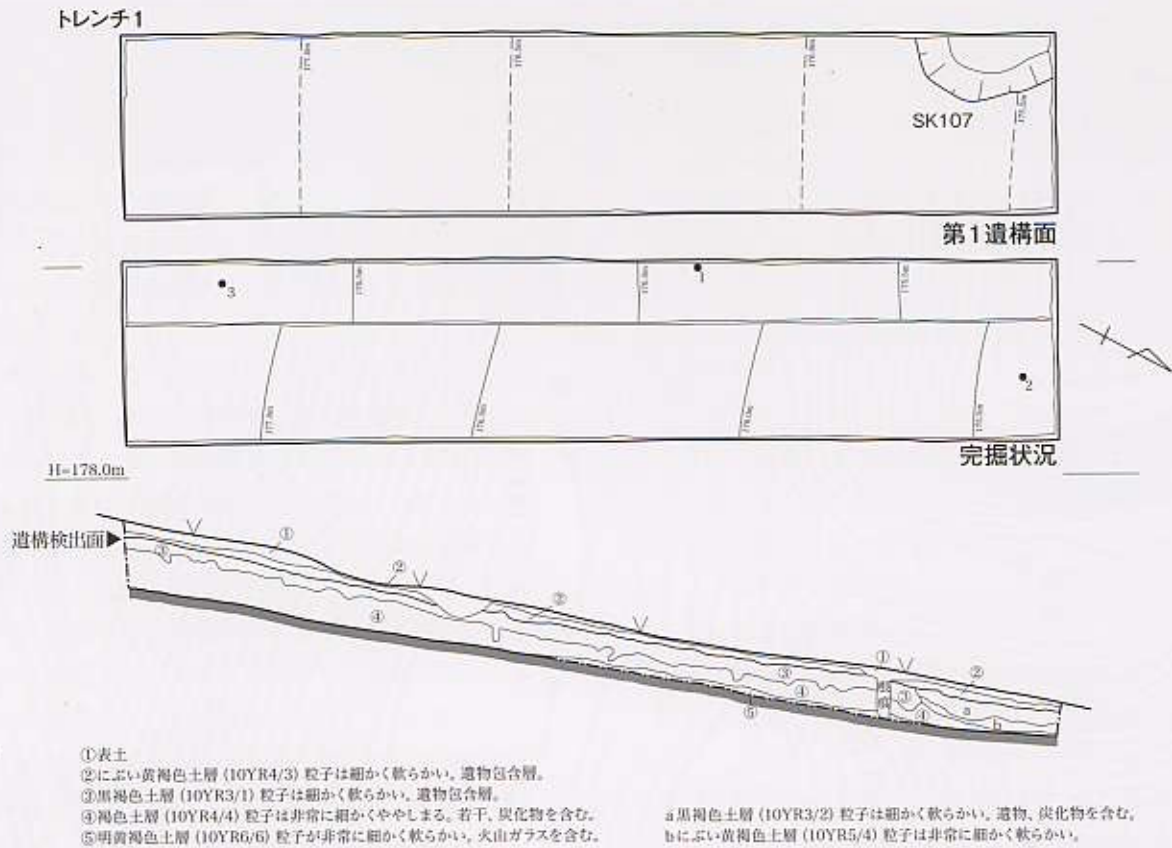
本調査の主たる調査課題は、地区内で遺構密度が高い松尾城1区・2区間の丘陵周辺における遺構分布の確認であった。2本のトレンチを設定して調査した結果、2基の土坑を確認したが、それぞれの遺構の詳細については不明な点が多い。

遺構分布だけではなく、遺物分布も希薄であるため、弥生時代における本調査区周辺は、それぞれの居住単位の間には存在した空閑地であった可能性が考えられる。

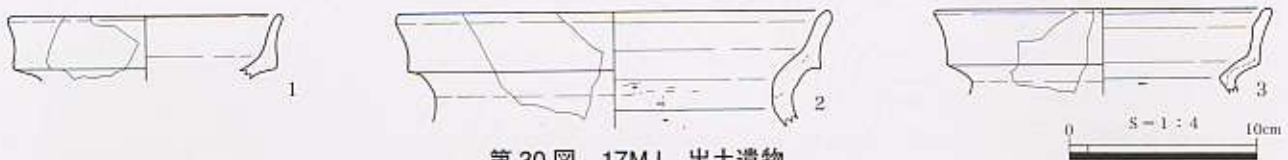
(河合 章行)



第28図 17MJ 調査区位置図



第29図 17MJ トレンチ平面図・断面図



第7表 土器観察表

挿 図	番 号	出土 位置	層 位	器 種	法 量 (cm)			色 調		調 整		残存部位 残存率	胎 土	焼 成	備 考
					口径	底径 (脚径)	器高	上段：内面 下段：外面	外	内					
30	1	T1 包含層	③	壺	(14.2)		3.4	にぶい橙色 暗褐色	ナデ	ナデ	口縁部 1/12	1	2	外面に煤付着	
30	2	T1 包含層	③	壺	(22.8)		6.1	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	ナデ	ナデ、ケズリのち ナデ、ケズリ	口縁～頸部 1/12	1	2	口縁帯は風化が激しく、調整不明	
30	3	T1 包含層	③	壺	(17.6)		4.5	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ	ナデ、ケズリのち ナデ、ケズリ	口縁～頸部 1/13	1	2	外面は風化が進み、調整は不明瞭	

註 (1) 挿図、番号は本文中の挿図番号に対応する。

(2) 出土位置は、トレンチおよび遺構名を示す。

(3) 法量について、反転復元による推定値は () で示した。

(4) 胎土、焼成については、以下のような記号を用いる。

胎土：密-1、やや粗-2、粗-3 焼成：硬質-1、良好-2、軟質-3

(5) 色調は、『新版 標準土色帖』による。



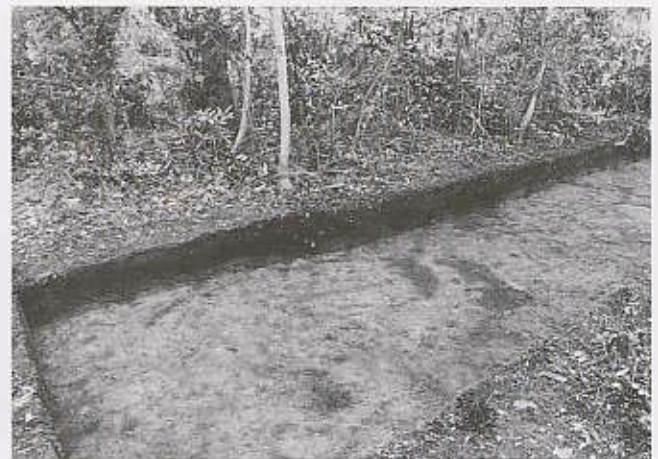
調査前



トレンチ1 土層断面



トレンチ1 完掘状況



トレンチ2 土層断面



トレンチ2 第108土坑検出状況



トレンチ2 完掘状況